

令和4年度第2回名張市障害者施策推進協議会 議事録

日時：令和5年3月28日（火）

午後1時30分から午後3時まで

場所：名張市役所 1階 大会議室

○あいさつ

会長挨拶

- ・委員の皆様、本日もよろしくお願ひいたします。年度末で今日は委員の皆様の出席率が芳しくない状況ですがご参加の委員の皆様方から率直なご意見をいただきたいと思います。

○委員自己紹介

○協議会成立確認

会場出席5名、リモート出席6名、委員総数20名のうち計11名出席を確認
名張市障害者施策推進協議会規則第4条に基づき、過半数を超えた出席のため、協議会は成立していることを事務局より報告する。

○議事

1. 第六次障害者福祉計画策定に係るアンケート調査集計結果（報告）
2. 意見交換 その他

（事務局）

- ・第六次障害者福祉計画策定に係るアンケート調査集計結果について、一部抜粋して説明。
- ・アンケートの調査目的は、第六次の障害者福祉計画策定の資料としてのニーズ把握である。例年の課題であるが、本人用の回収率が47.3%と半数以下となっている。
- ・一方で、小中高生については、学校様の協力もあり、回収率は高くなっている。
- ・本人用アンケートの間32の生活状況についての設問では、「親と家族と暮らす(224/355人)65%」、「持ち家(319/355人)89.9%」となっている。
- ・家族用では、障害者福祉サービスの情報の入手方法について、市広報または病院と回答いただいた方が多い。また、国や市で行う障害者福祉サービスの情報について、周知されていると感じている方が316人中「十分である(14人)」、「まあまあである

(373人)」となっており、今後の課題として捉えている。

- 一般用では、問11 ボランティア活動に参加経験についての設問で、例年の傾向のとおりにあるが、「無い(678/836人) 81.1%」となっており、ボランティアに参加したことが無い1番の理由として「活動や参加方法が分からない」が挙げられていた。
- 小中高生用では、障害者への理解についての設問の回答をみると、7～8割の方に理解を得られていると読み取れるが、ボランティア活動に参加経験のない方が9割で、その理由は、一般用アンケートと同じ、「活動や参加方法が分からない」が多く挙げられていた。

(会 長)

- 事務局より調査終了と調査結果の簡単に報告があった。本日は、日頃から感じておられる事も含め、ご発言いただきたいと思う。

(A 委 員)

- このアンケートはこれまで何回実施されているのか。

(会 長)

- 障害者福祉計画を作成する際は必ずこのような調査でニーズを把握し、適切に反映した計画にしていこうと実施してきたので、アンケートの実施としては今回で6回目である。

(B 委 員)

- 障害者への理解について、視覚障害者が公共交通機関を利用した際、優先座席に一般の人や学生が座り、席を譲ってくれないことがある。こういう現状がある中、啓発方法をもっと考えてもらわなければならないと思っている。
- 一般の方でボランティアへの参加が少ない点で、情報提供等をどうしていくか、次期計画の中で検討していただきたい。一般の方のボランティア参加が少ないとお伺いしましたが、スポーツを例にすると、ボランティアの方にもスポーツに参加いただき、障害のある人もない人もみんなが楽しめるイベントが開催されている。スポーツのルールを工夫する等、障害のある人がハンディなく取り組めるようなものを考えていく必要がありますが、ぜひ検討いただきたいと思う。
- それから、私は障害者の相談員もしていて、障害者も高齢化し、介護の認定を受けると同時に身体障害者手帳を取得する人も増えているので、今度のアンケートで介護認定を受けているかという項目を作ってはどうかと思う。介護を受ける方の割合もかなり多く、こちらでも検討願いたい。介護・高齢支援室も同時期にアンケートを実施しており、アンケートの設問に、いくつか重複する箇所があった。障害福祉室からのアン

ケートの対象者は幅広く、意識調査の観点から一般、学生、介護者を対象としている。

(会 長)

- ・ボランティアの問題というのは一時的に盛り上がれば参加者も一定数集まるが、毎年続くと段々下火になる傾向がある。社会全体が共生社会とのキーワードで動いているので、どちらかがボランティアでどちらかがサービスを受ける形ではなく、B委員が言われた、共に参加でき、自然な形でボランティア活動が展開できるイベントを開催できれば理想的だと感じる。
- ・学校教育では福祉教育に非常に力を入れているので、福祉教育の一環として強制的ではなく、ごく自然な形で障害のある人とない人とが交わる取組を実施いただければと思う。
- ・そういう意味ではC委員が会長を務めている名張市障害者アグリ雇用推進協議会のような取組が主流になっていくと思われる。

(C 委 員)

- ・障害のある方とボランティアがともに参加することは求められており、名張市障害者アグリ雇用推進協議会でも農業や園芸作業を通じてボランティアで関わっていただいている。農作物の販売も行って、そこで障害の方と一般の方が交流できる場面を作る、これが重要なと思う。

(会 長)

- ・D委員、教育の立場からボランティアの件でご発言ください。

(D 委 員)

- ・先程のお話のように、障害のある人とない人が共に学ぶクラスとして本校でも交流及び共同学習を推進しているところである。この3年間はコロナで十分な交流活動ができなかったが、次年度以降で徐々に復活していくのかなと考える所である。それと、この調査結果を見せていただき一点、前回からの比較データも見てみたいなど思っているところである。

(会 長)

- ・先ほど事前の事務局長との打ち合わせでも、前回との比較ができるような資料をぜひ出してほしいと申し入れをした。
- ・今回の調査結果は、市施策を立てる為の貴重な財産として保存することが絶対に必要だと思う。

(E 委員)

- ・調査目的や結果を基に、反省点等を箇条書きで表現していき、この調査結果の概要を元に話し合いする際に、年齢を区切るのは大事である。介護者も年齢のばらつきがあり、例えばキーの年齢で40歳、65歳、75歳以上などを集計したものを見せていただければ話しやすいと思うので、会長と同感である。

(福祉子ども部長)

- ・今回、資料が十分に準備できていなかった事をまずお詫び申し上げる。集計を終えた数字をほぼ生で出した状況で、どう分析するかは、会長からお話をいただいたようにこれまでの傾向との違い等、確認や補充の整理をして報告書の形も考え、努力させていただきたいと考えている。

(会長)

- ・この調査報告書は計画作成までに出来上がらなくても構わないと思う。とにかく、市がこれだけ丹念に、何年かに1回調査を行い、それに協力していただける方々に感謝の気持ちも込めて、きちんと成果として出していただきたい。
- ・調査の概要、対象者はここに書かれている通りである。一般用アンケートは事務局との打ち合わせで、単に無作為抽出ではなくて多段無作為抽出。無作為抽出では人口の多い地域に偏ってしまうので、名張市をいくつかのブロックに分け、そのブロック毎の人数に応じた数で抽出している。
- ・配布回収数について、世論調査、ラジオ等のNHKの調査で一般の人を対象にした回収率は5割程度。何千人を抽出して電話をかけてその半数、約40～50%位。多いに越したことはないが、一般では今回41.8%で、まあまあよかったかなと思う。
- ・ただ、申し上げにくいのが、障害者本人用と障害者家族用の回収率が期待したより低いかと思った。当事者並びに当事者と一番関係の深い方々ですので、もっと障害者福祉計画策定に向けてのアンケート調査に協力いただく。そういう態勢を今後どう構築するか。色々なニーズ、こうして欲しい、ああして欲しいという思いが日常あると思うが、それを普段、障害者が行政に対して言うことはなかなか難しいと思うので、アンケートの機会では是非そういうご意見をお寄せいただきたい。
- ・施策推進協議会には様々な領域の代表の方が出ているので、委員の皆様の思いを高め合う考え方もあるが、一番の主体は障害者ご本人並びにご家族、介護者の方々だと思うので、本人用や家族用のアンケートの回収率を高めていただきたい。
- ・一般市民の回答率が41.8%、少ないのではと思われるかもしれないが、回収率もさることながら、2,000人にアンケートを送り、自然な形で啓発を進める意味もある訳である。繰り返しますが、障害当事者並びにご家族の方々の回収率を上げる方策について事務局を中心に検討していかなければいけない。例えば、各種の障害者団体がありますので団体を通して調査に協力してくださいとお願いさせていただく等

- ・視覚障害、聴覚障害、言語障害といったように、身体障害者手帳の種別ごとにそれぞれの割合が見える集計をお願いしたい。

(B 委 員)

- ・各障害種別の割合が分からないと施策に反映していくことが難しいと思う。障害福祉サービス一つをとっても、障害種別によって全然違うためである。年齢によっても違う。例えば、高齢者が介護の認定と同時に身体障害者手帳を申請しましたという相談で、移動支援に困るとか色んな相談を相談員として受けることがある。

(B 委 員)

- ・発達障害というのは、手帳でいうとどこに入るのか。

(会 長)

- ・療育手帳と精神障害手帳の方に入っている。

(事 務 局)

- ・身体障害手帳所持者数は約3,000人台、療育手帳所持者数は約800人台で、身体手帳と療育手帳の所持者数に差がある。そこを多段抽出で同じ割合で抽出している。今後、手帳の種別の人数や回答率等も集計予定である。

(会 長)

- ・前回の協議会で、事務局よりアンケートの項目の中で、性別をたずねる項目は削除した方が良いと提案を受けたが、会長としては性別がないのは統計資料として非常に不完全だと強く申し上げた。調査の結果、性別について意見はありましたか。

(事 務 局)

- ・学校教育の分野では、特にマイノリティに配慮した流れがあり、複数の学校から、性別の項目はなるべく無い方がいいのではというご意見をいただいている。性別の項目で無回答の方は数名、数%おられた。

(会 長)

- ・性別設問について、特に小中高校生は無回答が多いと表をみて思いますので、男女に加えて無回答というのをに入れていただけて良かったと思う。

(副 会 長)

- ・手帳ごとに取得年齢に少し差が出ると思う。重要なデータだと思いますので、ぜひ載

せていただきたい。

(F 委員)

- ・本人、家族の回収率が低い点で、回収方法が郵送と、今回からウェブ回答もありましたが、郵送とウェブ回答の割合はどうでしたか。

(事務局)

- ・今回、書面、郵送での回答に加え、ウェブ上でも回答いただけるとご案内を差し上げた。特に小学生、中学生、高校生は、学校でアンケートを実施していただき、かなり多くの方、約99%位がウェブ回答であった。
- ・本人用、家族用、一般用では、一般では約40%位がウェブ回答で、残り60%位が書面回答であった。一方で、本人用と家族用については、ウェブでの回答というのが非常に少なく、恐らく数%だと思う。約90%が書面回答で、障害者本人やご家族様、ご高齢の方などはウェブでの回答が難しかった印象である。

(F 委員)

- ・ウェブでの回答を入れることで回収率が上がるのではという議論を前回していたので、一般や小学生、中学生、高校生の回答率が上がったのはウェブの部分は反映されていて、本人様ご家族様ではそのウェブ回答は少なかったということですね。

(B 委員)

- ・アンケートを見て気になった点が2つ程ある。毎日運動をしている人が少ないこと。障害のある人は運動にどう向けていくかが課題だと思う。次に、意見のところ、リハビリしてくれる病院が少ないとあったが、病院でリハビリというよりも、運動に向けていく施策が必要ではとアンケートを見て思った。

(G 委員)

- ・学校運営にも携わる中で、人権学習が非常に盛んな小学校があり、人権学習で色々なアンケートを見せていただき、知識は深まるが、学校から一歩外に出た時、知識はあっても意識がない。知識ばかり頭でっかちで、上手く活用できないといったことが見受けられる。だからアンケートで回収率が低い低いって言われますが、私はそんなに期待しなくていいと思う。アンケートを配る事で意識付けができる。知識より意識が重要ではないか。民生委員の定例会で、障害福祉室で作っていただいたDVDを使い研修会をしますが、福祉活動する我々でさえ意識はないし、普段の生活で障害者に対し、同情はするが、意識は薄い、共感がない。私も経験しましたが、同情されるのが一番つらいんですよ。それよりも共感されたら分かります。同情じゃなくて共感される方が非常に涙が出る位、嬉しい時があります。私はまだまだ軽度な方ですが、重篤

な程、そういう喜びは倍増になると思う。同情よりも共感をしてもらう。そのためには知識があって意識を持つ。この流れを小学生の年齢の段階から意識づける。次の世代です。それよりも今の小学生、若い子どもさんたちに障害者の知識があって意識付けをして、きれいな言葉で言ったら共生社会に向けての教育をその段階からやっていかないとダメだと思う。

(会長)

- ・特別支援学校の側から言わしていただくと、地域交流を希望する人が出て初めて地域と学校に交渉して交流をお願いします、共同をお願いしますとなる。そんな申し出がなければ学校として交流及び共同学習を積極的に進める姿勢、現状は、時間的な余裕が、様々な要因で難しいところがある。だから名張市では、自然な形で交わるような取組を、名張市障害者アグリ雇用推進協議会が農福連携の事業として進めている。それから、個人的な意見ですが、障害がある場合は早くから適切な教育を受けなければいけないが、日本では障害者種別で早くから取り組む事と、分けて教育する事が一緒になっている。高学年では学習量の問題とかはあるが、小学校低学年位まではクラスと一緒に過ごした方がいい。日本の分離する発想自体が違う。早くから適切な療育、教育を受けさせなければいけないというのと、分離するのは違う。

(D 委員)

- ・小学生、中学生、高校生のアンケートで、問2のあなたの周りに障害のある人はいますか、小学生でいないの答えは58.6%、中学生で39.8%、高校生で55.0%。周りにとはどこを指して答えたかも分からないが、小学生の6割がいないと答えたのでびっくりした。小学校に特別支援学級もあり、すぐ隣にあるのに、いないと答えたのに驚いた。改めて、交流及び共同学習の重要性というのを感じた所である。

(C 委員)

- ・園芸や農業、農作業を通じた教育分野での活動をしている中で、園芸や農作業は誰でもできる、できない人も身体障害の方でも見て参加できる、そして楽しんで帰っていただく、そんな交流ができるのでぜひ農業の部分の体験を通じて障害の皆さん方と交流を深めていただきたい。そして、障害特性を理解してもらう事が可能かなと思う。特に農福連携ではそんな事を前面に出していき、社会参加や、障害者の方が自立のきっかけ、自信を持ってもらう、その為にも参画をしていただく活動を進めていくべきだと考える。

(副会長)

- ・せっかく回答いただいたアンケートなので、できる限り分析して私達が何を学び、課題として可視化するのが大事だと思う。アンケート後の分析は手間がかかり大変だと

思うが、結果から学べる事、訴える事が沢山あると思うので、ぜひ私ももう一回読み込みたいと思います。この先、障害者福祉計画の策定に移るので、結果を活かす作業に皆様で取り組んでいければ有難いと思うので、よろしくお願いします。

(会 長)

- ・ 事項書の第六次障害者福祉計画策定に係るアンケート調査集計結果の概要説明という所までは至らなかったが、それなりに意見交換ができてよかったかなと思う。